

あゆみ

諸塚村婦人
連絡協議会
教養部
第30号

あらためて、よろしくお願いします

諸塚村婦人連絡協議会長 田丸 悦子



8月は諸事雑多な月でした。

それにしても年をとるほど忙しくなるようです。母などはたまに骨休めに誘えば「年寄りにはそんな暇はない。」と断ってきます。しかし、仕事もなく趣味もなく時に任せて置いていくのは淋しいものですし、暇がなくて何よりだと言ってやります。

昨年、日向市駅前商店街活性化フォーラムなるものに参加して「日向は諸塚から人もお金も搾取するばかりだ。入郷にも人・もの・金を還元してほしい。入郷が疲弊すれば日向の発展はない。」と述べてきました。

私たちはもっと貪欲になって街から収入を得ることを考えてみましょう。

せっかくの産物を持ちながら、お土産や接待に差し上げるばかりではつまらないではありませんか。

先日は広域観光セミナーがありました。講師曰く「身近なものを見直して、あんなものこんなものも売ってみよう。持てる資源を掘り起こそうというものでした。じゃんじゃん稼いで私たちがハワイに行きましょう。忙しいことが楽しくなる日々は理想？なんだか本当に忙しい人たちにはいらぬお世話と叱られそうですね。

公民館活動と共に歩んできた婦人会も来年は60周年を迎えます。他のどの町村にも負けない県下1番の婦人会と思っています。1期2年、気を抜かず、心を込めて務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いします。



諸塚に来て7年目

塚原婦人部 高野 久子

諸塚に来て今春で丸6年が経ちました。こちらで生まれた娘がもう4才。早いものです。

来た当初は、自給自足、農的生活がしたい等々いろいろ理想もあったけど、実際は全く親戚も知人もいない土地で一から始め暮らしていくことだけでエネルギーを使い果たしてしまっただけです。

他にもいろんな出来事があり、自信を全く失い、ここでこの生活を続けていけるか真剣に考えた時期もありましたが、現在は諸塚の四季折々の豊かな自然に癒されながら、畑仕事も含め日々ぼちぼち頑張っています。勉強したいことも見つかり、将来それで人の役に立つことが出来ればいいな…とも考えています。

今年4月に入会したばかりの婦人会。7年目にしてやっとそのゆとりができました。

これからよろしくおねがいいたします



高野さんちのゴーヤです。

はや50年

滝の下婦人部 池田 文子

私が都城から諸塚に嫁いで早50年の年月が過ぎました。結婚当初から主人の両親と同居しましたが、姑がそれはそれは几帳面な人でしたので、部屋にはいるときのスリッパの揃え方からやかましく言われるなど行儀作法にとても厳しく、何度も隠れて泣いたものでした。

舅は平成2年に他界しましたが、臨終が近いベッドの上で、実の息子や娘の声は聞き取れなくても嫁の私の声だけは聞き分けてくれました。

元気な頃は散々けんかした舅と私ですが、このときいろんな思い出が頭をめぐり、涙が止まらなかったことを思い出します。

姑の方は寝たきりになり、そのうち認知症の症状も現れ、十数年間は介護に追われて昼も夜もない日々が続きました。当時は特別養護老人ホームなどもなく、全て自宅での介護でした。入浴させるのもひと仕事です。2階の部屋から姑をおぶって、時には抱えて1階の風呂場に連れて行きます。浴槽から上げるときには床に3、4枚のバスタオルを敷き、その上で体を拭き上げて着替えをさせ、また2階へと運びました。

厳しかった姑は、「ありがとう」の嬉しいことばを私に残して亡くなりました。



こんな思い出ももう15年も前のことです。月日のたつのは本当に早いものだ実感します。

年をとってしまった今、婦人会に入会して良かったなあとも思います。

30歳から婦人会に入会し、主人の理解を得てママさんバレーを続けて30年。バレーボールの練習は介護に明け暮れていた日々のストレス解消になりました。

最近は年齢を考えてミニバレーに移行し、毎週2回健康づくりを兼ねて練習に励んでいます。

私がこんなに長く、楽しく元気にバレーボールを続けてこれたのは「心を許しあって悩みを相談できる友人」

「一緒に泣いて笑える仲間」がいたからこそだと思っています。

これから先もみんなと共に楽しく頑張っていきたいと思っています。



ありがとう

滝の下婦人部 大橋 明美

婦人部の方々に助けていただきながら、役員として早いもので1年半が過ぎようとしています。活動を通しての一番の収穫は、いろいろな方々と知り合いになれたことです。

今年、郡婦人レクリエーション大会の応援に初めて椎葉村体育館へ行きました。

村体表として家代と南川の婦人部の方々が参加され、熱戦が繰り広げられ、家代チームが決勝戦で南郷チームと対戦し、惜しくも準優勝となりましたが、選抜チームと言ってもおかしくない相手に対して、家代チームは素晴らしい試合展開でした。仕事や家事を抱えながらの練習は大変だったと思います。

大会開催地区は、準備、打合せ等に気配りを徹底し、おもてなしの心が大切だと実感させられた大会でした。

そして、会員や家族の協力なしでは出来ないことを今更ながら痛感しています。

じいちゃん、ばあちゃん、子供たち、そして我が父ちゃん、いつも協力してくれてありがとうございます。





私が婦人会に入った頃は結婚と同時に入会するのが当たり前のような時代でした。

自分の母親と同じ年齢の人たちの中に加わり、子育てをしながら各会合に参加し、婦人会の役割を教えられ、嫁いだ地域での各行事や祭や葬儀を通し、家族や諸先輩の行動を見て学び、手ほどきを受けながら料理や農作業を覚え、嫁としての務めを教わってきたように思います。振り返れば何も出来なかった私には厳しい日々でしたが、今は身についた教えがいかされていることが私の財産です。

家の光大会、生活研究大会の発表やアトラクション、文化祭出品の作品等、毎年のようにこれでもかと頭をひねりながらつくった料理等、私にはどんな時でも諦めずにいざとなったら完璧にやりこなしていく婦人会の根性は、何物にも代え難い諸塚女性の熱い血潮を感じます。これも長い歴史の中で伝える人、受け継ぐ人により築き上げられた宝ではないでしょうか。まさに世界遺産を見て感動するのと同じくらいの諸塚遺産と言ってもおかしくないと思っています。

勿論、一緒に手を取り合って頑張れる会員に支えられながらやってこられたのも事実、現在は会員の減少により各行事をこなしていくことも困難を極めつつあるのも事実です。それでも伝え続ける意義を痛感しています。

婦人会に入りもうすぐ29年、今は嫁を迎え、教える側の立場になっている私です。私が教えを受けたときと同じようにありったけの思いやりと優しさを持って教えてあげたいと思っています。

会長2年目を迎え、会員みなさんの笑顔に支えられながら一つ一つ行事をこなしていける日々感謝しています。



母のおやつを思い出して！

飯干婦人会 甲斐 とみ子

残りご飯には飯もち、大豆にはきな粉、小麦にははったい粉などなど、本当に忘れられない幼少の頃のおいしいおやつのコマでした。

現在、これがおやつと言ったらどのような反応が来るでしょう。

いま私たちは、子供の頃母がつくってくれた味を思い出しながら、少しでも自然の味をと思い、企画が計画している地域でのツアー活動にこのような料理を復活させているところです。

私たちも幼少の頃食べた味を思い出しながらの活動なので不安はありますが、本当に喜んで食べていただく一人一人の姿を目の前にして、自然の食の大事さを痛感しているところです。

今は食べるものも何不自由なく手に入る時代ですが、これからも自分たちでつくった作物で、少しでもこのような活動が広げられたらと思い、これからも頑張っていきたいと思っています。



～村婦協からのお知らせ～

〈これまでの主な行事〉

- 4月25日(金) リーダー研修(ゴミの分別について、他)
- 7月20日(日) 村婦人ミニバレーボール大会
平均年齢49歳以下の部 優勝 家代Aチーム
平均年齢50歳以上の部 優勝 南川地ごんにゃくチーム
- 7月27日(日) 郡婦人レクリエーション大会
平均年齢49歳以下の部 準優勝 家代Aチーム
- 9月27日(土) 平成20年度諸塚村女性の集い

〈今後の主な行事〉

- 10月12日(日) 村民体育大会(ダンス協力・椎茸音頭)
- 11月16日(日) 村文化祭(出品・福祉バザー協力)
- 11月17日(月) 県婦人体育大会
- 12月 歳末慰問
- 2月 県婦人大会



※来年は諸塚村婦人連絡協議会発足60周年を迎えることから、記念大会と記念誌の発行を予定しています。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

の山

人生をよく山にたとえる人がいます。確かに人生とは、どこまで登っても頂上のない大きな山なのかも知れません。

私はその山に名前を付けました。

その名も、の山です。

この、の山を登るのは至難の業です。なんせ、その山にはよだ木をいう木が、べらっと生えているからです。このよだ木がくせものです。この木を切り倒し、開拓しなければの山を登っていくことは出来ません。また、開拓するためには、その回りの短木・勝木・損木・浮木をかきわけ、根このしんき根をよけ根を掘り起こさなければなりません。さらによだ木には、しよの実、ねた実、ひが実、やつか実という毒の実があります。これらを開拓すれば、やる木というすばらしい木が生えてきて元木になり、やっちみろか根がはりだします。回りには、しよじ木、稼木、油断無木、目先良木、辛抱強木、養生良木、慈悲深木、家内睦まじ木が生えだし、そうしてそのうち人間実、あわれ実、つよ実というすばらしい実をつけ、すべてにおいて無駄無木になります。の山を登るのを嫌がって、てこや丘に登って満足する人がいますが、てこや丘には、どい蛇とか、ぼく蛇というこわい毒蛇がいます。これらの蛇にかみ殺されてしまうのがオチです。

よだ木に負けず の山 を精一杯登りましょう。

(日向市細島 妙国寺にて)

今回のあゆみは横書きにしてみました。いかがでしょうか。原稿を書いてくださったみなさん お忙しい中ご協力ありがとうございました。

